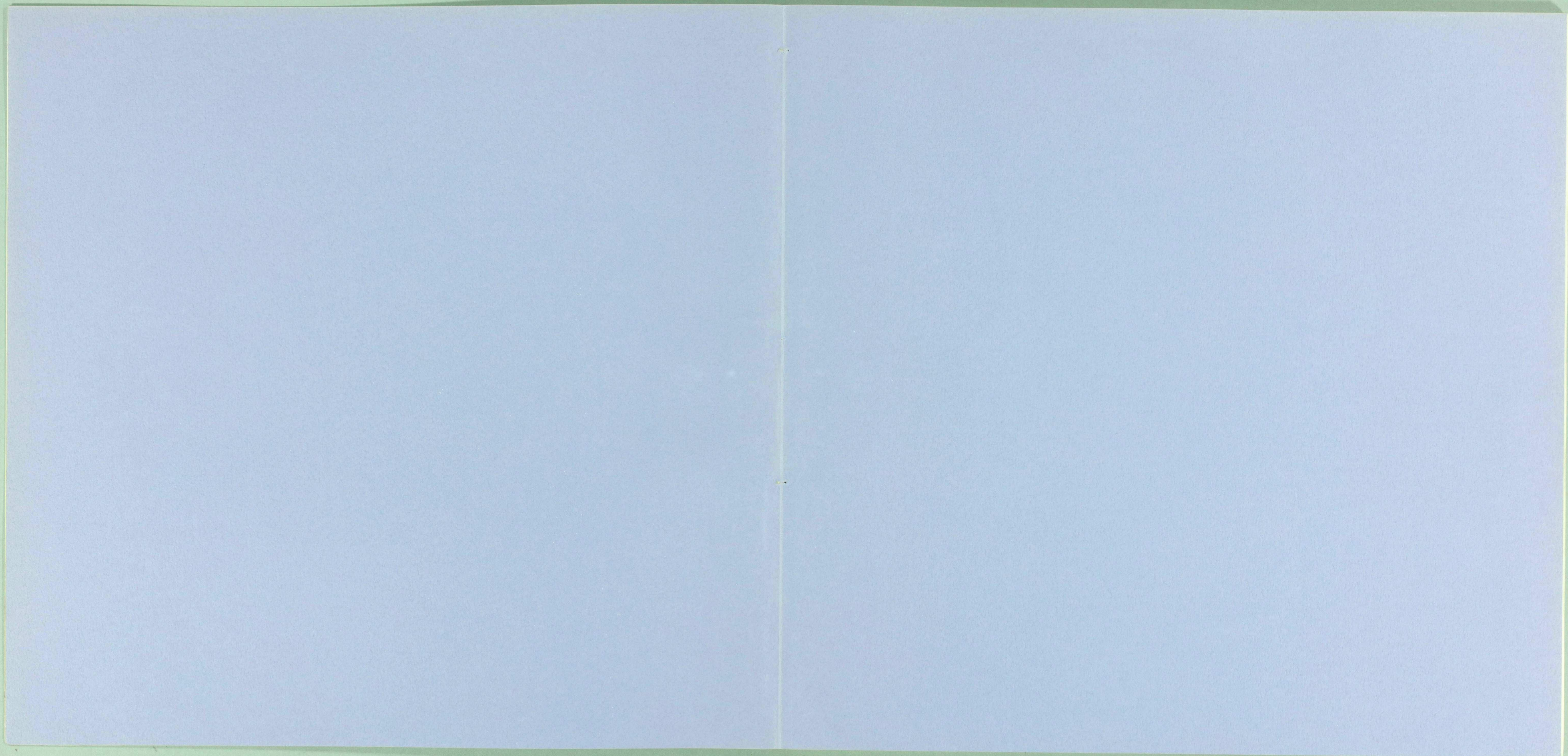


'96 熊本市勢要覧





KUMAMOTO CITY

'96

市勢要覧

CONTENTS

写真説明

熊 本 城

熊本城は、かつて大阪城、名古屋城とともにわが国三名城に数えられた城郭で、慶長12年（1607）加藤清正が7年の歳月をかけて、周囲9km、大天守、小天守、櫓49、櫓門18をもつ複雑かつ壮大な城をつくった。

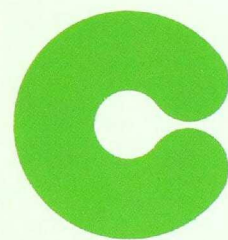
明治10年（1877）の西南の役に官軍がたてこもり、西郷隆盛の軍に50余日にわたって攻撃され、そのほとんどが焼失し、昭和35年9月現在の大天守、小天守が再建された。

熊本市民愛市憲章・市木・市花・市鳥	1
発刊にあたって	3
熊本市のあゆみ	4
名誉市民	10
地域と気象	11
人 口	12
基本構想／水と緑の人間環境都市を目指して	14
〃／いきいきとした市民福祉都市を目指して	15
〃／活力あふれる交流拠点都市を目指して	16
〃／風格ある文化創造都市を目指して	17

幸せの4つの条件

◎健康を実感できる「安全で健やかなまちづくり」	
防 災	20
消 防	21
交通安全	22
健康文化	23
保健医療	24
良好な環境づくり	26
緑と水	27
ごみ・し尿処理	28
公害防止	30
◎豊かな人間関係を保つ「心のかようまちづくり」	
地域福祉	32
高齢者福祉	33
心身障害者福祉	34
児童・母子福祉	35
社会保障	36
学校教育	38
学校施設	39
社会教育	40
青少年の健全育成	41
創造的な人づくり	42
消費者行政	43

男女共同参画社会	44
国際交流	45
◎仕事や活動を通して「生きがいを感じるまちづくり」	
中小企業	48
魅力ある商店街	49
工 業	50
流通・情報拠点	51
雇用福祉	52
観光・コンベンション	53
農林水産業	56
住 宅	57
公園緑地	58
上水道	59
下水道	60
市電・市バス	61
道路・駐車場	62
基幹交通	63
市街地開発	64
◎美しいものに感動できる「豊かな感性を育むまちづくり」	
歴史文化	67
史跡・文化財	68
都市景観	69
市民文化	70
生活文化	71
行 政	72
市議会	74
財 政	76
広報・広聴	78
市民のくらし	79
熊本市案内図	80
資料編	81
熊本市歌	



熊本市章

ひらがなの「く」の字を
図案化したもので、市民の
調和を基とし、たくましく
発展する熊本市の姿を太い
円で示したものです。

熊本市民 愛市憲章

品位ある市民の
誇りのために

私たち熊本市民は
清潔で住みよい街をつくりましょう

私たち熊本市民は
郷土の自然や文化財を大切にいたしましょう

私たち熊本市民は
時間を正しく守りましょう

私たち熊本市民は
交通徳徳を重んじましょう

私たち熊本市民は
互いにあたけかく交わり旅行者を親切に迎えましょう

昭和35年 5 月11日制定

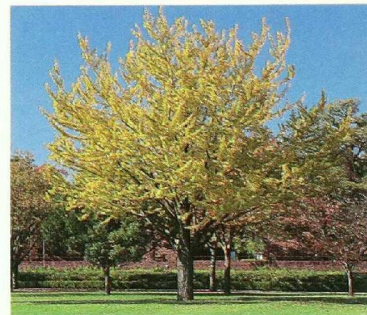
市木・市花・市鳥

市木・市花 昭和49年10月9日制定
市 鳥 昭和59年5月22日制定

THE SYMBOL TREE IN KUMAMOTO

●市 木 イチョウ(イチョウ科)

熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになじみ深く、強健で樹齡が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しさでよく知られている。



THE SYMBOL FLOWER IN KUMAMOTO

●市 花 肥後椿(ツバキ科)

江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ寺社地の豪族等の愛好者によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味わいある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花弁が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅芯のように盛りあがるところにある。



THE SYMBOL BIRD IN KUMAMOTO

●市 鳥 シジユウカラ(シジユウカラ科)

全長約14.5cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し白い胸に黒ネクタイ状の帯が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。

(写真は、東海大学出版会提供
フィールド図鑑より)





全ての市民が幸せであると感じられる都市の実現を目指して

中核市を機によりいっそう市民の暮らしを豊かにするため、「幸せの4つの条件」をテーマに、個性あふれる人づくりまちづくりを目指し、大いなる展望と限りない可能性で未来へ翔くふれあいのく・ま・も・と

※幸せの4つの条件……………●健康を実感できる「安全で健やかなまちづくり」
●豊かな人間関係を保つ「心のかようまちづくり」
●仕事や活動を通して「生きがいを感じるまちづくり」
●美しいものに感動できる「豊かな感性を育むまちづくり」

発刊にあたって

水と緑の豊かな自然に恵まれ、優れた伝統と文化を有する熊本市は、平成3年2月に飽託郡4町との同時合併を実現し今や人口は65万人を超え、政令指定都市を除くと、全国2番目の大都市となりました。更に、平成8年4月には中核市に移行し、21世紀へ向け新たな出発をいたします。

私は、市長就任以来1年間、市政を見極め、外から見た熊本市と、現実捉えた熊本市の姿を対比しつつ、市民の皆様と行政が積極的に意思の疎通を図る双方向の対話を機軸に、人情味豊かで思いやりあふれる都市づくりを進めてまいりました。

今後は、中核市として、市民の皆様が幸せであると感じられる都市の実現を基本理念において、次の四つの柱により市政に取り組んでまいりたいと考えております。

その第一に、健康を実感できる「安全で健やかなまちづくり」です。健康は、人の幸せの基であり、市民の皆様一人一人が心身共に充実感あふれ、生活環境・都市環境対策など安全で健康なまちづくりを積極的に推進してまいります。

第二には、豊かな人間関係を保つ

「心のかようまちづくり」で、温かいふれあいのある、人情味あふれる家庭やいじめのない明るい学校、職場等、地域性豊かなまちづくりを進め、国際化時代に対応した国内外との都市交流も積極的に展開してまいります。

第三には、仕事や活動をとおして「生きがいを感じるまちづくり」で、これは、都市の活性化、産業経済の振興により雇用を拡大し、やりがいのある仕事や活動の場を持てる、生涯現役のまちづくりを推進してまいります。

第四には、美しいものに感動できる「豊かな感性を育むまちづくり」であり、恵まれた自然環境と歴史、感性豊かな文化を基本条件として、創造力あふれる多彩な市民活動の展開と熊本らしさの個性を育むまちを築き上げてまいります。

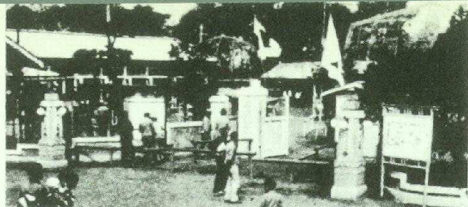
以上の取り組みに際しましては、幾多の困難もありますが、市民の皆様と一体となり一つ一つ問題を解決し、目標実現のため、私は、全力を尽くしてまいります。どうか市民の皆様より一層のご支援、ご協力をお願い致します。

この'96市勢要覧は、21世紀に向けて、大きく羽ばたく新熊本市の姿を収録したものであり、ご高覧のうえ、市政への一層のご理解を頂ければ、誠に幸いに存じます。

平成8年3月

熊本市長 三角保之

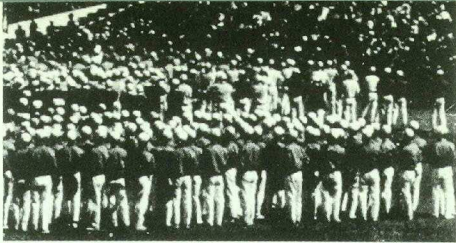




昭和4年7月に水前寺動物園が開園。



昭和10年頃の市街記
念碑前、市営バスの充
着所。左に専売局と公
会堂、右に勤業館、電
話局が見える。



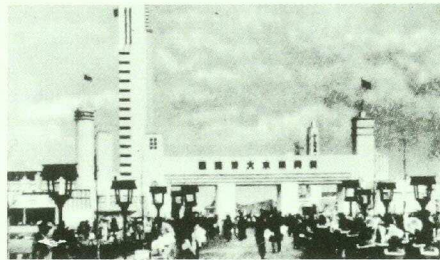
昭和35年10月、第
15回国民体育大会
は、全国から1万
3千人が集まり盛
大に開催された。



昭和35年9月、
83年ぶりに熊
本城天守閣が
再建された。



昭和5年10月 市公会堂新館が開館
昭和43年市民会館の出現に伴い取りこわされた。

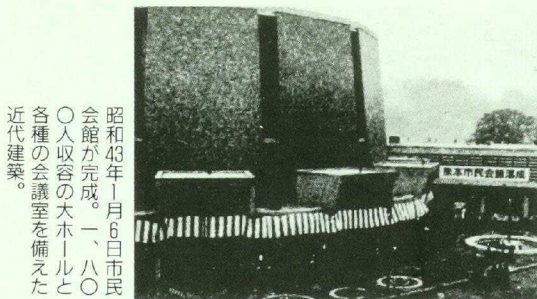


昭和10年3月から5月にかけて開かれた
新興熊本大博覧会。



「昭和29年8月26日」大水害の惨
状。到る所泥の山。流失した家財
などで復旧に多くの人手、資材と
日数を要した。(上通り筋)

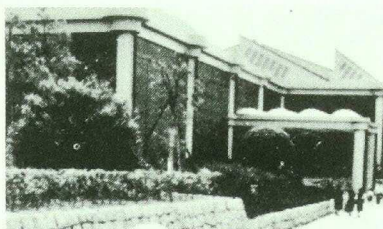
元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	
昭和	4月	が統合され、熊本日日新聞が発足	5月	天皇皇后両陛下ご来熊 この年、国立熊本大学発足、 県立熊本女子大学が創設される	1月	併	12月	動」がはじまる	
	18(1943)	この年、学徒、女子挺身隊の戦時動員が開始される			7月	大水害で市の33%が浸水し、 金峰山周辺の山津波で死者、 行方不明多数を出す	40(1965)4月	東部污水处理場完成 市食肉センター開所 この年、市内全小学校に プール完成	
		健軍に三菱重工業航空機製作所が完成する	25(1950)	朝鮮戦争おこる	33(1958)	NHK熊本テレビ開局	41(1966)9月	西部清掃事業所開所 市民相談室を設置	
	19(1944)	市電気局が市交通局と改称	6月	市競輪事業開設	2月	中島村を市に合併	10月	熊本保健所が九品寺1丁目に 新装発足	
	20(1945)	市立本荘産院が発足	7月	熊本市立産院開設	4月	天皇皇后両陛下ご巡幸で 立田山、水前寺などをご観覧	42(1967)	出水町に県庁新庁舎が完成	
	6月	7月・8月の空襲で市の大半が 焦土と化す	26(1951)	市教育研究所を設置		第30回選抜高校野球大会で 済々黠が優勝	3月		
	7月	終戦の詔書放送	4月	市立博物館開館	9月	熊本市体育館が水前寺公園横に 完成	43(1968)	1月 市民会館開館	
	21(1946)	市立市民病院発足	27(1952)	住民登録制度を実施		田迎村、御幸村を市に合併	4月	市社会教育会館が開館 市育英奨学制度創設	
	2月	日本国憲法公布(新憲法) この年、学校給食はじまる	7月	豪雨、大水害で市人口の66%が 罹災	34(1959)	国民年金制度発足	44(1969)	熊本(水辺)動物園が完成し、 「熊本動物大博覧会」を開催	
	11月	市長、県知事が初めて公選で決まる	4月	池上村、高橋村、城山村を市に合併	4月	国民健康保険制度発足	4月	熊本市章きまる	
22(1947)	国民学校が小学校に、また新制 中学が誕生	6月	市立図書館発足	35(1960)	熊本市立空港開設	8月			
4月	憲法、地方自治法施行	7月	ラジオ熊本開局	4月	愛市憲章を制定	45(1970)	11月 託麻村を市に合併		
和	23(1948)3月	市消防本部設置	10月	市自治警察廃止(警察制度改正)	5月	熊本市城天守閣再建完成	46(1971)	4月 新熊本空港開設	
		市立母子寮を開設	29(1954)	秋津村を市に合併	8月	第15回国民体育大会を開催	4月	5月 市勤労青少年ホーム開館	
		市自治警察本部設置(新警察 制度発足)	6月	市電30年記念「交通観光博覧会」 を開催	9月	天守閣再建記念「躍進熊本大博覧会」 開催	6月	6月 九州縦貫自動車道(熊本・植木間) 開通	
	4月	新制高等学校発足する	10月	松尾村を市に合併	12月	北部清掃事業所開所	7月	熊本市基本構想きまる	
	24(1949)	「火の国まつり」はじまる	30(1955)	託麻村の一部を市に合併	37(1962)	市総合計画策定(マスタープラン)	11月	市立ユースホステル開館	
	4月	市立実務員養成所(後の実務商業) を開設	4月	小島町、龍田村を市に合併	38(1963)	「まちをキレイにする運動」が はじまる	47(1972)	10月 「森の都」を宣言し、森の都作戦を 展開	
			31(1956)		39(1964)		12月 秋津下水処理場が完成	48(1973)	1月 戸島町に市斎場開設
			32(1957)		10月				



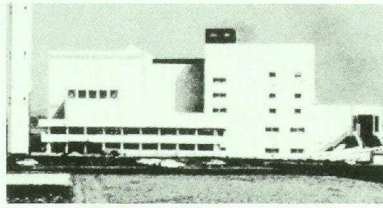
昭和43年1月6日市民
会館が完成。一、ハ○
○人収容の大ホールと
各種の会議室を備えた
近代建築。



昭和46年6月、熊本・植木間の
高速自動車道が開通した。



郷土熊本に根ざした西日本
一を誇る熊本博物館が昭和
53年4月1日に開館した。



昭和58年11月
新市庁舎完成。



昭和53年8月、熊本の新しい夏まつ
り、市民総参加の「火の国まつり」
が始まる。



産業文化会館



昭和63年4月
長堀通り開通

元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと
昭和	48(1973)	学校給食東共同調理場が完成	昭和	54(1979)4月	つり」が誕生 東部清掃工場完成	昭和	8月	西ドイツ・ハイデルベルク市へ友好訪問団を派遣	昭和	3月	電子計算システム始動
	49(1974)	勤労婦人センターを本山町に開設		7月	新熊本市市民病院開設		10月	熊本市市民の翼、友好都市桂林市を訪問		4月	西部清掃工場完成・東部清掃事業所開所
	10月	西部、南部市民センターが完成		11月	熊本市保健センター開設(現東部保健センター)が開所		11月	新市庁舎建設完成		7月	総合体育館・青年会館開館
		森の都のシンボルとして市の木「イチョウ」、市の花「肥後ツバキ」がきまる		10月	龍田市民センター完成		57(1982)	幸田市民センター完成		8月	第4回全国都市緑化くまもとフェア開催
	50(1975)	身体障害者福祉モデル都市に指定される			「健康都市」を宣言		6月	北部保健センター開設		(8月1日～10月12日)	10月1日を「市民健康の日」と制定
	5月	南千反畑町に中央老人福祉センターが完成			中国・桂林市と友好都市締結		7月	小楠記念館完成		10月	
	9月	市立金峰山少年自然の家が開所			市制90周年記念式典を行う			青少年野外活動センター完成		12月	新西保健所開設
	10月				養護老人ホーム明生園開園		8月	西ドイツ・ハイデルベルク市、音楽五重奏団来熊		62(1987)	川尻下水処理場運転開始
	51(1976)	「地下水保全都市」を宣言		55(1980)	身障者福祉センター希望荘開設		11月	図書館完成		5月	「ふれあいの森林」内に森林学習館がオープン
	3月			6月	水害で約16,900人の市民の罹災者を出す		58(1983)	龍田体育館完成		7月	南部市民センター開設
昭和	52(1977)	西南の役百周年記念式典を行う	8月	熊本市総合計画基本構想きまる	59(1984)	市の鳥としてシジュウカラ制定	9月	西消防署が移転新築			
	4月	熊本市人口が50万人を突破	12月	熊本市保健衛生研究所開設	5月	扇田埋立処分場供用開始	10月	教育センターオープン			
	5月	錦ヶ丘に東部市民センター完成		熊本市基本構想きまる	7月	清水市民センター完成	10月	第1回熊本緑化祭開催			
	9月	地下水保全条例を制定する	56(1981)	熊本市人口が55万人を突破	8月	熊本市の人口が55万人を突破	12月	米国・サンアントニオ市と姉妹都市締結			
			1月	熊本市総合計画基本計画きまる		消防新庁舎完成	63(1988)	くまもと女性フォーラム'88開催			
			2月	産業文化会館が開館	10月	母子福祉センター完成	1月	シルバー人材センター発足			
			3月	託麻市民センター完成	60(1985)	秋津市民センター完成	2月	大阪事務所オープン			
			5月	熊本市総合計画基本計画きまる	6月	熊本市自転車駐車場完成	4月	シンボルマーク発表会			
	53(1978)	新しい熊本博物館が開館	7月		8月			長堀通り開通			
	4月				1月						
8月	市民総参加の「火の国ま										



平成元年10月1日
市制100周年記念式典



平成2年4月、総合婦人会館・カルチャーセンターオープン。



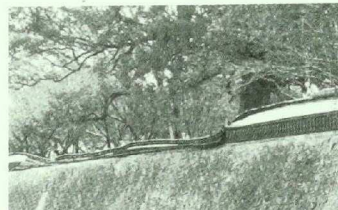
平成2年10月「水の科学館」が開館。



平成3年2月
熊本市と飽託郡四町が合併



平成3年7月、「くまもと工芸会館」がオープン。



台風19号の被害



長寿の里デイサービスセンター



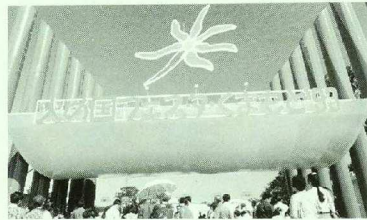
平成5年3月、熊本港開港



希望荘デイサービスセンター



平成5年9月、大名屋敷・旧細川刑部邸完成



平成5年6月、火の国フェスタ・くまもと'93開幕



国際交流会館



高速消防救助艇



「市民子ども憲章」を制定



平成7年2月、福井市での姉妹都市覚書調印式



子ども文化会館



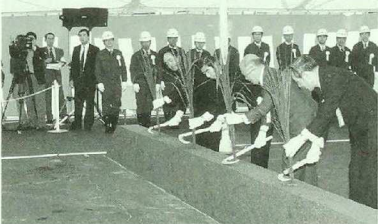
平成7年4月、市民交流サロンオープン



武蔵塚駅前自転車駐車場



ハンドボール世界大会の熊本開催が決定。



九州新幹線熊本駅整備調整事業起工式（平成7年5月）



中核市政令公布



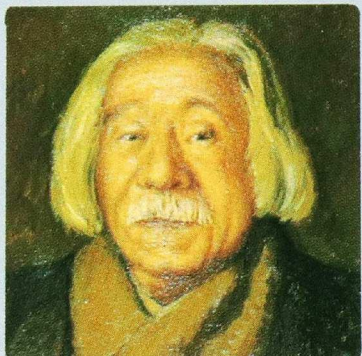
環境総合センター

元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと
昭	63(1988)	大江市民センター完成	平	6月	中国・桂林市、アメリカ・サンアントニオ市、ドイツ・ハイデルベルグ市を迎え「水資源国際会議」を開催	平	3月	高規格救急車が消防局に配備	平	8月	新熊本市史発刊
和	8月	江津湖まつり（マイソング発表会）	平	8月	花園市民センターがオープン	平	4月	熊本城周遊バスがスタート	平	9月	熊本城天守閣がリフレッシュ
元	10月	くまもと緑化祭・地場産業振興フェア開催	平	9月	市民長寿社会憲章制定	平	5月	ハイデルベルク市との友好都市締結の調印式	平		地域福祉コミュニティセンターが市内5カ所でオープン
平	3月	市議会で飽託郡四町からの合併請願採択	平	10月	平成学園オープン	平	7月	「上高橋団地」が完成	平		「大名屋敷・旧細川刑部邸」が完成
	4月	「熊本百彩」開幕	平	3月	熊本市基本構想策定	平	8月	熊本駅前北地区第一種市街地再開発事業完了	平		駐車場案内誘導システムがスタート
		流通情報会館完成	平	4月	「五福地域開発センター」が落成	平	9月	くまもと環境フェア'92を開催	平	10月	「火の国フェスタ・くまもと'93」が開幕
		「水源かん養林記念植樹祭」	平	5月	本庄犬刈線立体交差開通	平	10月	動植物園内に「熊本・桂林友誼亭」が完成	平		透明ごみ袋によるごみ出し制度スタート
	5月	サンアントニオ市に「熊本園」完成	平	6月	「南部総合スポーツセンター」がオープン	平	11月	「長寿の里デイサービスセンター」が完成	平		ハイデルベルク市と「医療基金」協定に調印
	8月	金糸猴一般公開	平	7月	「くまもと工芸会館」がオープン	平		南部第一土地区画整理事業完了	平		サンアントニオ市とエイズ対策で共同宣言
	9月	南部保健センター開設	平	9月	台風19号来襲	平	6(1994)2月	老人保健福祉計画を策定	平		兵庫県南部地震第1次災害救援隊派遣
		宇土橋・数寄屋丸二階御広間完成	平	10月	動植物園がオープン	平	4月	天明総合支所庁舎が完成	平		福井市での姉妹都市覚書調印式
		動物資料館完成	平	11月	（財）熊本国際コンベンション協会設立	平	5(1993)2月	環境総合計画まとまる	平	6月	白川河川敷で震災の発生も想定した総合防災訓練
	10月	熊本城フェスティバル	平		熊本市総合計画基本計画策定	平	3月	熊本港が一部開港	平	8月	九州で初のオールスター競輪開催
		歴史都市サミット開催	平			平	8月	保田窪放水路完成	平	9月	環境保全都市を宣言
2(1990)	3月	政治倫理条例制定	成	4(1992)1月		成			成	11月	高齢者世話付住宅出水団地完成
成	4月	「総合婦人会館・カルチャーセンター」がオープン								12月	中核市政令公布
	5月	武蔵塚公園が新たに開園									
		川尻下水処理場汚泥焼却場完成									

徳富蘇峰(本名・猪一郎)氏

(昭和30年1月1日表彰)

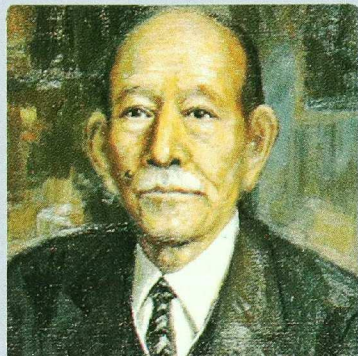
近世日本の先覚者。また、世界に稀な優れた思想家であった。熊本在住中は、白川新聞、熊本新聞等を発刊。大江義塾の創始者として子弟の教育に専念し、その啓蒙的影響が大であった。文久3年1月25日生れ、昭和32年11月2日死去、94歳。



高橋守雄氏

(昭和30年1月1日表彰)

第7代熊本市長として、歩兵23連隊の移転・市電・上水道の開設の三大事業を完遂、市の近代化、発展繁栄に尽した。また、教育者として熊本商大、短大学長を歴任、郷土教育の振興育成に努力した。明治16年1月1日生れ、昭和32年5月3日死去、73歳。



細川護立氏

(昭和35年4月1日表彰)

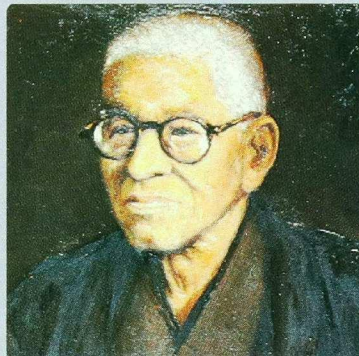
肥後旧藩主細川家16代。有斐学舎舎長、肥後奨学会設立、多額の奨学金を出資して本県出身学徒の育成援護に尽した。国の文化財保護委員会委員として、本市の重要文化財、史跡、名勝等の保存活用に貢献。明治16年10月21日生れ、昭和45年11月18日死去、87歳。



福田令寿氏

(昭和35年4月1日表彰)

医師開業のかたわら、医専五高等で教鞭をとり子女の教育に専念の外、社会文化、社会福祉の要職を歴任、郷土の文化・福祉の向上発展に尽した。清廉・潔白な人格者であった。明治5年12月7日生れ、昭和48年8月7日死去、100歳。

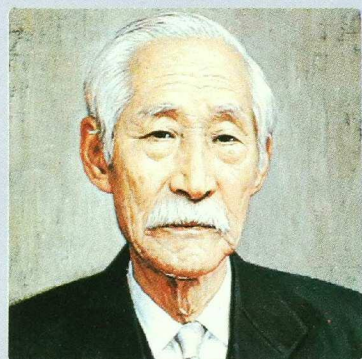


名 誉 市 民

KUMAMOTO'S

HONORARY

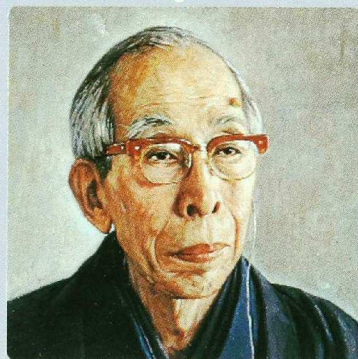
CITIZENS



宇野哲人氏

(昭和44年10月1日表彰)

東京帝国大学での漢学・中国哲学の教授、東京大学名誉教授、実践女子大学々長、名誉教授等優れた業績は、郷土熊本の文運の興隆に、また、我国の漢学関係の学者に多大の影響を与えた。明治8年11月15日生れ、昭和49年2月19日死去、98歳。



堅山南風(本名・熊次)氏

(昭和44年10月1日表彰)

横山大観画伯等に師事し、日本画に精進。その多くの作品の上に、肥後の郷土色のにじみ出た芸術の香りがよく生かされている。日本画壇の第一人者といわれ、また、郷土文化の進展に大きく貢献した。明治20年9月12日生れ、昭和55年12月30日死去、93歳。



後藤是山(本名・祐太郎)氏

(昭和54年10月1日表彰)

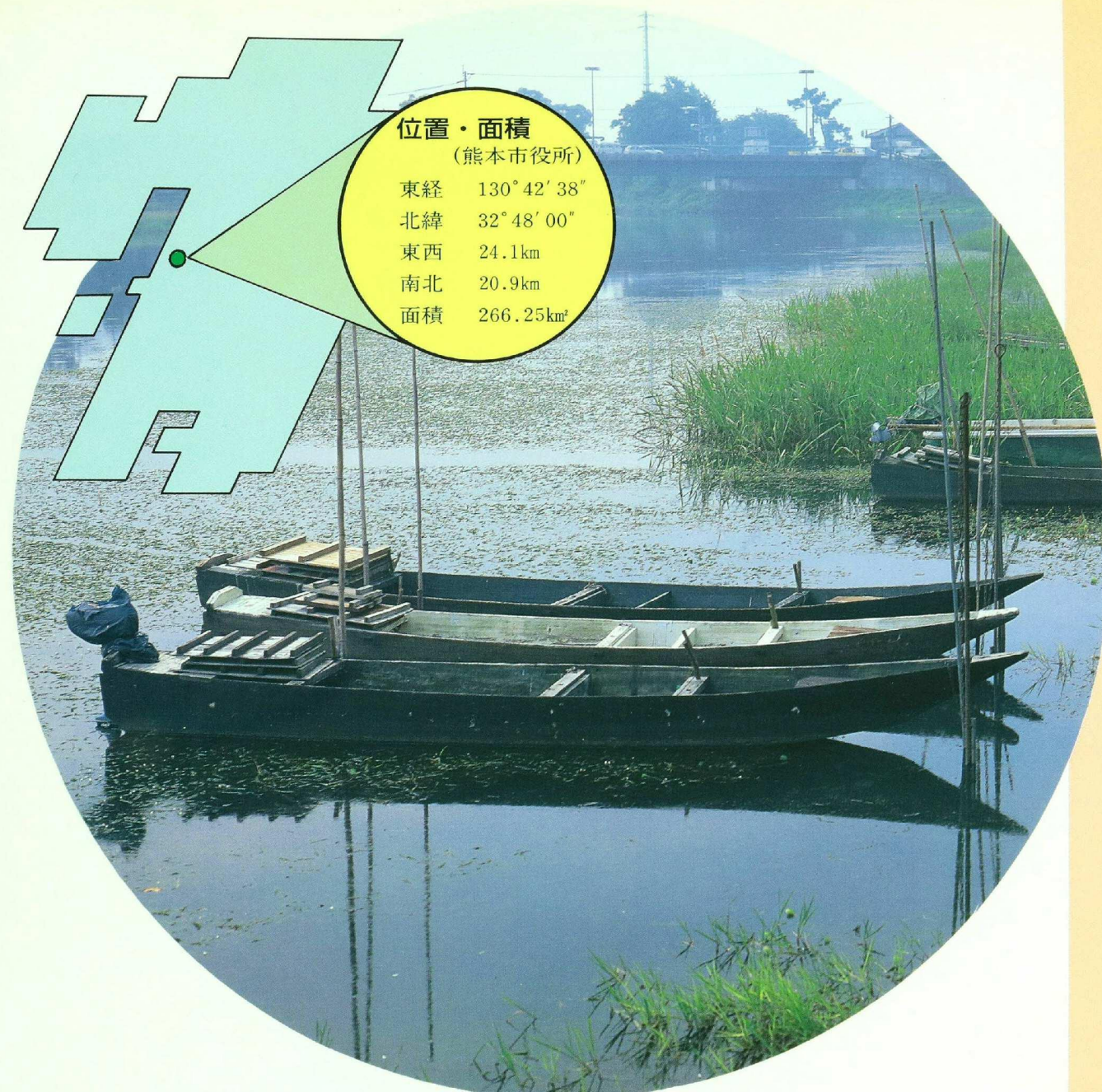
元九州日日新聞社主筆。生来の文人墨客の性格と豊かな文筆で、数多くの郷土史を編さん監修、先人についての研究著述があり熊本の文化の啓蒙に尽した。「明星」同人、句誌「かはがらし」(後の東火)を主宰した。明治19年6月8日生れ、昭和61年6月4日死去、99歳。



中村汀女(本名・破魔)氏

(昭和54年10月1日表彰)

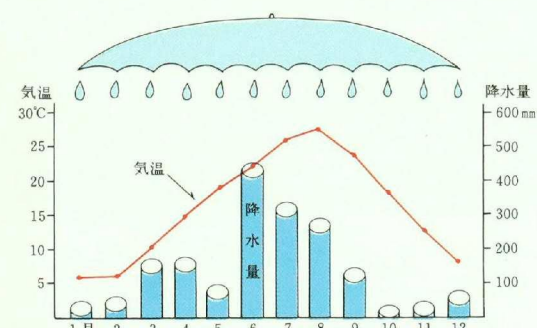
高浜虚子の門下生で、現代女流俳句の第一人者。常にふるさとを愛する心を底流にした「汀女俳句」。は、氏の人柄と句にふれる人々に、郷土愛を喚起させ、郷土の文化振興に貢献。「ホトトギス」同人、「風花」を主宰した。明治33年4月11日生れ、昭和63年9月20日死去、88歳。



位置・面積

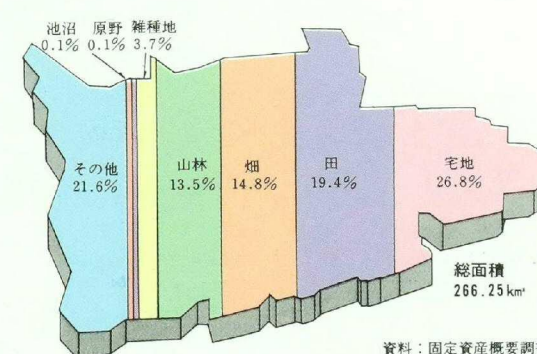
東経	130°42'38"
北緯	32°48'00"
東西	24.1km
南北	20.9km
面積	266.25km ²

■気温と降水量の月別変化 (平成4年～平成6年平均)



資料：熊本地方気象台

■地目別土地面積 (平成7年1月1日現在)



資料：固定資産概要調査

地域と気象

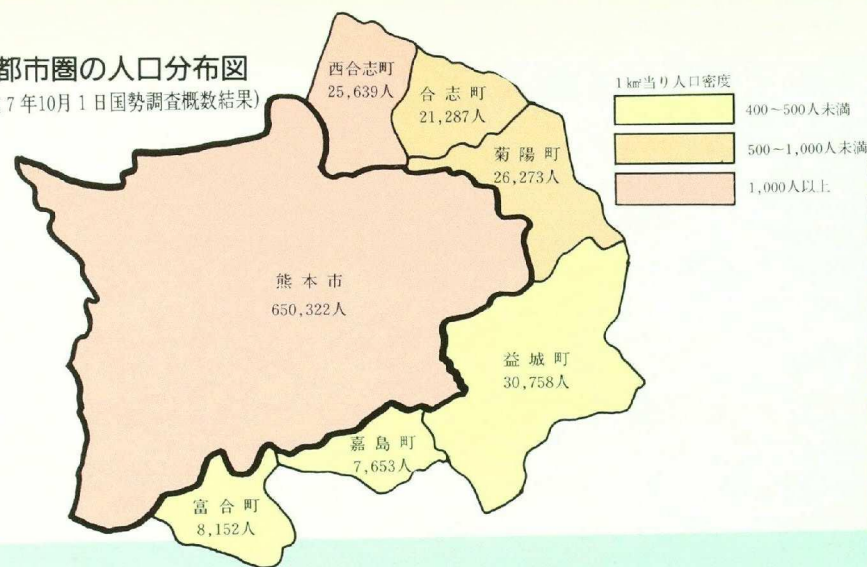
本市は九州の中央、熊本県の西北部、東経130度42分・北緯32度48分の位置にあります。

この位置と同緯度に近い都市としては、長崎市や中国の南京市があります。地勢は西北部から北部にかけて金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の小火山の噴出物で覆われた台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯であり、南部は阿蘇火山に源を発する白川の三角洲で形成された低平野からなっています。

気候は緯度からいえば温暖な地帯にあるが有明海との間に金峰山系が連なるため、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きく冬から春への移り変わりは早く、夏は比較的長いことが多いようです。また、夏の夕方は「肥後の夕風」といって、蒸し暑いのが特徴です。

気温は年平均17.4℃で、平成6年の最高気温は8月の38.8℃、最低気温が1月の-4.4℃となっています。年間降水量は921mmで、例年の降水量約2,000mmからすれば半分以下でありました。また、風向きは春から夏にかけて西南西の風が強く、秋から冬にかけては西北西に変わり、風速は1年を通して2m前後のゆるやかな風が吹いています。

■熊本都市圏の人口分布図 (平成7年10月1日国勢調査概数結果)

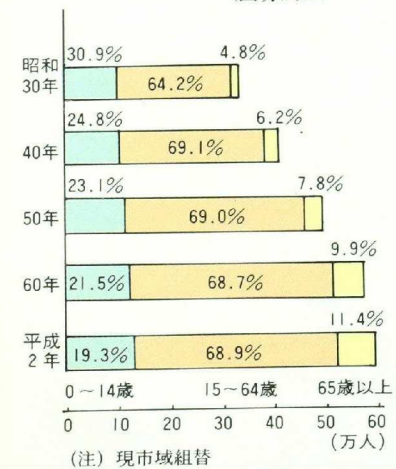


明治22年、市制施行当時42,725人（M.22.12.31現在）であった本市の人口は、その後、数回にわたる市域の拡大や都市機能の集積等に伴い増大し、昭和52年には50万人を超え、平成3年2月1日には、飽託郡4町と合併し、627,568人（224,219世帯）となり、岡山市を抜いて全国で15位となりました。また、近年の人口増加は年率1%前後で推移し、一世帯当たり人員は2.64人となっています。

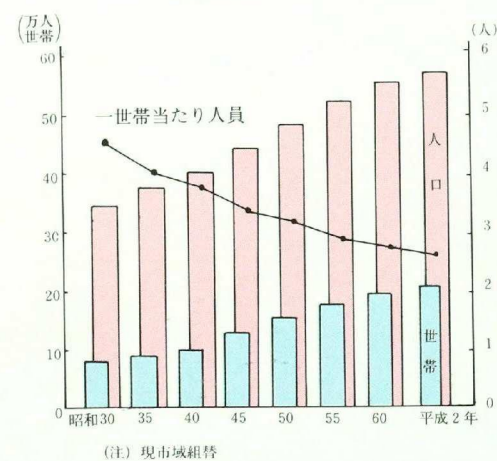
また、平成2年と昭和60年の国勢調査を比べると23,587人、4.2%の増加で、昭和50年以降、増加数、伸び率ともに鈍化しています。さらに年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口が19.3%、15～64歳の生産年齢人口が68.9%、65歳以上の老年人口が11.4%となっており、60年より年少人口の割合が2.2ポイント低下したのに対し、老年人口が1.5ポイント上昇するなど、高齢化が進みつつあります。

また、人口の地域分布では、平成7年の国勢調査概数結果でみると、およそ東部に19万8千人、北部に12万2千人、中央部に14万3千人、南部に11万1千人、西部に7万5千人となっています。この中で、中央部だけが人口の減少が続いています。

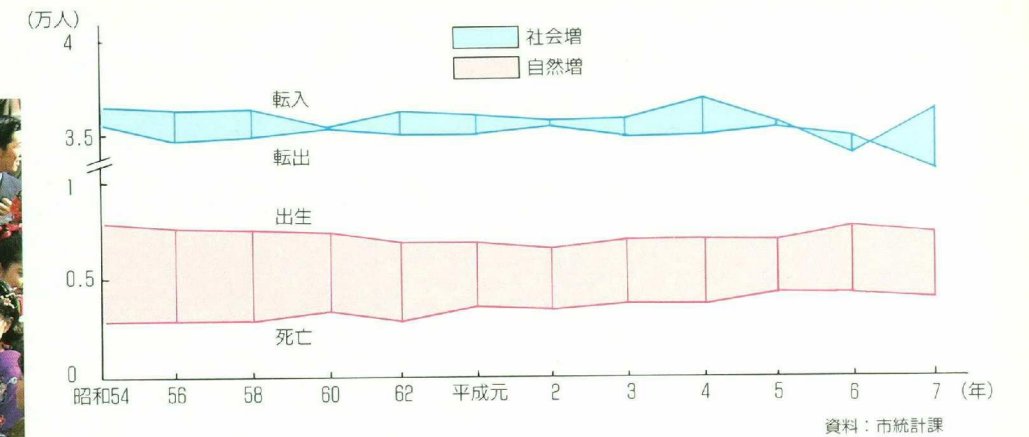
■人口の年齢（3区分）構成推移 (国勢調査)



■人口・世帯数の推移 (国勢調査)



■人口動態の推移



なお、人口分布の偏りを示す人口重心は、25年から一貫して東へ寄り続け、平成2年では、熊本高校運動場西側に移動し、平成7年には開進高校西門から北へ150mの地点へ移動し今まで東へ移動していた人口重心が今回は旧飽託郡4町の編入により北西へ移動し、向きを変えました。

都市圏人口

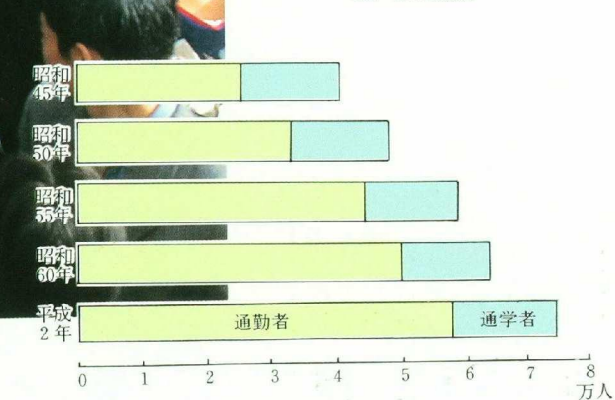
熊本都市圏の人口は、平成8年1月1日現在771,651人（282,756世帯）で熊本県総人口の41.5%を占めています。人口増加率は、1.2%となっています。

都市圏人口は、昭和30年国勢調査以降、5年毎に熊本市は4万人前後で増加していましたが、昭和60年から平成2年までは約2万4千人（4.2%）の増加となり、伸びが鈍化してきました。また、10町の人口は、昭和45年までは減少し、昭和50年に増加に転じ、55年にピークとなり、増加率は20.5%の大幅な増加となっています。

昭和45年から平成7年までの25年間の都市圏人口の増加数は約21万6千人となっています。現在、人口増加のピークは過ぎたものの年平均5千人から6千人の増加を続けています。

■流入人口の推移

(国勢調査)
(注) 現市域組替



■年齢別人口構成 (平成2年国勢調査)

